

令和6年度 第1回高齢福祉部会 会議録

日 時	令和7年2月7日(金) 18:30~19:20
場 所	北広島市役所 3階 会議室3D
出席委員	伊藤貢委員・齋藤光枝委員・櫻井美帆子委員・三瓶徹委員(部会長)・島谷清張委員・白崎秀年委員・三木千晶委員 (五十音順)
欠席委員	對馬伸泰委員(職務代理者)
事務局	工藤高齢者支援課長・野切福祉総合相談室参事・金田主査・浜山主査・宮下主査・山田主査・清水主任
傍聴者	なし
会議次第	1 開会 2 部会長挨拶 3 報告事項 (1)第9期介護保険事業計画の評価と課題について 4 その他 5 閉会

会議録

1 開会

委員8名中7名が参加。委員の半数が出席していることにより、会議成立。

2 部会長挨拶

三瓶部会長より挨拶

3 報告事項

(1) 第9期介護保険事業計画の評価と課題について

〔質問・意見〕

(質問)

資料1-① 補聴器利用促進事業について、購入費用の一部助成とは、具体的な金額でいくらなのか。

(回答)

補助金額は購入費用の2分の1で、上限額は50,000円。

(質問)

資料 1-③ 軽費老人ホームとはどのような施設形態なのか。

(回答)

比較的安い費用で入居できる施設。入居者は必要に応じて、入居先で介護サービスを受けることになるが、その料金は介護報酬に準じる。

(質問)

資料 1-③ 施設公募について、周知方法について問う。

(回答)

公募の際は、市のホームページや広報での周知をはじめ、介護事業者向けの広報誌にも掲載している。

(質問)

資料 1-① 配食サービスについて、提供事業者のうち 2 事業者はどのような理由で撤退したのか。

(回答)

利用者が数名程度であり、事業継続を望まなかったため。

(質問)

資料 1-① 配食サービスについて、利用者負担金の 1 食 400 円は安いと感じるが、提供事業者にとって採算が合わないと感じてくるのでは。

(回答)

近年の物価高騰による事業者のコスト負担増については、委託料に反映するよう配慮している。

(意見)

受給者と提供事業者、双方の負担感を精査してバランスを取っていく必要があると感じる。

(質問)

資料 1-① 後期高齢者健診について、オプションとして眼底検査を追加することは可能なのか。

(回答)

制度上は可能だが、受診者の 8~9 割は通院しており、眼科の受診者も相当数いることから、オプションとして用意することは見合わせている。

(質問)

資料 1-① 地域リハビリテーション活動事業について、どういう身体状況の人を対象としているか。例えば、健常者の予防を図るのか、車いす等で生活する方のリハビリを図る目的なのか。

(回答)

体操等で地域住民が集まる会館に、理学療法士などの専門職を派遣して、体力測定しながら助言を行うことから、健常者や虚弱者のフレイル予防を図る目的がメインとなる。

(質問)

資料 1-① 特定健診・後期高齢者健診について、受診数の計画値は、市内に居住する対象者のうちの程度の割合を見込んだ人数なのか。

(回答)

特定健診については現状 38.7%程度であるが、特定健診等実施計画では目標 65%を目指していることから、この計画値になっている。後期高齢者健診については、約 14~15%程度である。

(質問)

資料 1-① 後期高齢者健診の受診数の計画値は、全体の 14～15%との回答であったが、特定健診と比較して、なぜ低いのか。

(回答)

対象者の中に通院者や入院者も含まれているため、受診数が低くなる。

(質問)

配食サービスの利用対象者における、総合事業対象者と任意事業対象者とはどのような対象者なのか。

(回答)

総合事業対象者が要支援 1・2の方であり、任意事業(高齢)が要介護 1～5の方と介護認定を受けていない方となる。その他に障がい者を分類している。

(意見)

資料 1-① 総合相談事業について、相談件数の内訳をグラフなどで見える化した方がニーズや課題が見出せるのでは。

(回答)

次回の資料作成時に検討させていただく。

4 その他

連絡事項等なし。

5 閉会 (午後 7 時 20 分)
